

ときつちょう うちどく すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ていがくねんむ あきごう
低学年向け 2025年 秋号



発行：ときつちょうりつときつとしょかん

うちどく 家読とは

かぞく みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく (家読)」です。難しいルールは要りません。

かぞく みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

かぞく 同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



Illustrator ATSUKO



「もりのてぶくろ」

八百板 洋子//ぶん ナターリヤ チャルーシナ//え
八百板 洋子//ぶん (福音館書店)

もり なか 森の中にてぶくろみたいな葉っぱが一枚落ちていました。ねずみがやってきて、そっとてのひらを重ねてみますが、「ぼくにはおおきいや」と行ってしまいました。あとからあとからいろいろな動物たちがやってきて、てをあててみます。ぴったりなのは誰かな？



「きのこはともだち」

松岡 達英/構成 下田 智美/絵と文 (偕成社)

あき 秋はきのこの季節。森の中にはきのこがいっぱい。きれいなきのこは、たべられないのもおいしい。きのこのことがなんでもわかる絵本。見ているだけでも楽しい。

きのこを使ったおいしいりょうりの作り方をのってるよ。



「本がきれい本がすき」

マリアホ イラストウラホ//さく え
小川 紗良//やく (KTC中央出版)

「たのしい夏休みに、本を読むのをわすれずに！」と先生は言った。せっかくの休みに本をよむなんて、そんなのいやだ！

しぶしぶおねえちゃんにつれられて図書館に行き、ちょっとぶあつい本をかりてきた。おねえちゃんにすすめられたからだ。

ページをめくり、読みだすと、「え？」ってなって、「うわっ！」となって…。いつのまにかぼうけんのたびに出ていた。

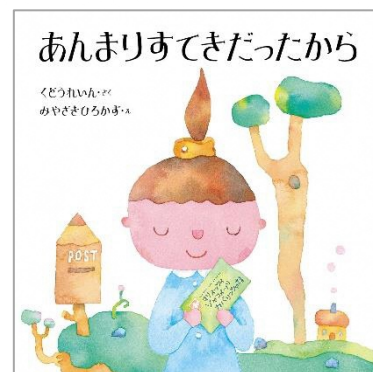


「ちょっとだけともだち」

ながかわ ちひろ//作 (のら書店)

ぼくはともだちを作るのがにがてな男の子。どうしたらともだちができるのかわからない。妹は幼稚園に入園したその日に、ともだちができた。おばあちゃんにだって、お母さんにだって、たくさんともだちがいる。でも、おじいちゃんにはともだちがない。ぼくはきとおじいちゃんに似たんだなあ。ところが、おじいちゃんには「ちょっとだけともだち」がいた。

「ちょっとだけともだち」って何だろう？



「あんまりすてきだったから」

くどう れいん//さく みやざき ひろかず//え (ほるぶ出版)

かじゆ うたこえ 歌手の歌声があんまりすてきだったから、ここをこめててがみを書きました。そのてがみがあんまりすてきだったから、はいたつしていたゆうびん屋さんは、思わずくちぶえをふきました。それを聞いたことりは楽しくなって…。

しあわ 幸せな気持ちがどんどんつながっていきます。いつしか読んでいる人にもつながって、幸せがとどきます。



「図書館のぬいぐるみかします3」

シンシア ロード//作 ステファニー グラエギン//絵 田中 奈津子//訳 (ポプラ社)

ほん おな 本と同じようにとしょかんで借りることが出来るぬいぐるみたち。この3巻は、ユニコーンのぬいぐるみ「キラリ」のおはなし。

キラリの夢は、ずっと住める家で、その家の子どもになる事です。ある日、キラリを借りて行ったのは、さいきんこの街にひっこしてきたばかりのマヤという女の子。キラリはマヤと仲良くなり、夢をかなえることができるのでしょうか？